

カルシウムのサプリメントが大動脈弁狭窄症による死亡と関連

カルシウム (Ca) の代謝と大動脈弁狭窄症に関連があることはこれまでに示されている。骨粗鬆症のリスクが高い高齢者に Ca およびビタミン D のサプリメントの使用が増加しているが、大動脈弁狭窄症における長期的な Ca およびビタミン D のサプリメント摂取の安全性についての研究はほとんどない。本研究では、Ca およびビタミン D のサプリメント摂取と死亡、大動脈弁狭窄症との関連について、長期後ろ向き研究を実施し検討した。

2008～2016年に登録された60歳以上の軽度から中等度の動脈弁狭窄症患者2,657例(平均年齢74歳、女性42%)を対象にサプリメントの有無で3群、すなわちサプリメントなし群(1,292例・49%)、ビタミンDサプリのみ使用群(以下、ビタミンD単独群332例・12%)、Caサプリのみ、またはCaとビタミンDサプリ併用群(以下、Ca±ビタミンD群1,033例・39%)に分類し、2018年まで中央値で69カ月追跡した。解析した結果、サプリなし群に比べCa±ビタミンD群では全死亡リスク、心臓血管死亡リスク、大動脈弁置換術施行リスクのいずれにおいても有意な上昇がみられた(ハザード比はそれぞれ1.31 (P=0.009)、2.0 (P=0.001)、1.48 (P<0.001))。

今回の結果から、高齢の軽度から中等度の動脈弁狭窄症の患者において、Caサプリの服用はビタミンD服用の有無にかかわらず生存率の低下および大動脈弁置換術の施行率の上昇と関連することが示された。

出典：Heart. 2022 Apr 25; heartjnl-2021-320215.